

シュローダー・インカムアセット・アロケーション (毎月決算型)

Aコース (為替ヘッジなし) / Bコース (為替ヘッジあり)

愛称 グランツール

追加型投信 / 内外 / 資産複合

交付運用報告書

第121期 (決算日2023年7月3日)

第122期 (決算日2023年8月3日)

第123期 (決算日2023年9月4日)

第124期 (決算日2023年10月3日)

第125期 (決算日2023年11月6日)

第126期 (決算日2023年12月4日)

作成対象期間 (2023年6月6日～2023年12月4日)

Aコース (為替ヘッジなし)

第126期末 (2023年12月4日)	
基準価額	7,336円
純資産総額	2,587百万円
第121期～第126期	
騰落率	8.2%
分配金 (税込み) 合計	210円

Bコース (為替ヘッジあり)

第126期末 (2023年12月4日)	
基準価額	5,581円
純資産総額	107百万円
第121期～第126期	
騰落率	1.1%
分配金 (税込み) 合計	180円

(注) 騰落率は期末の基準価額に分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書 (全体版) に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書 (全体版) は、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書 (全体版) は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書 (全体版) の閲覧・ダウンロード方法>

右記の委託会社のホームページの「投資信託一覧」から当ファンドを選択することにより、運用報告書 (全体版) を閲覧およびダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。さて、「シュローダー・インカムアセット・アロケーション (毎月決算型) Aコース (為替ヘッジなし) / Bコース (為替ヘッジあり)」は、このたび第121期～第126期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、市場環境に合わせて機動的に資産配分の調整を行う外国籍投資信託を主要投資対象とし、実質的に、複数のインカムアセット (世界の高配当株式、債券等) に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。当作成期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館21階

当運用報告書に関するお問い合わせ先

- ・投資信託営業部 電話番号 03-5293-1323
- ・受付時間 9:00～17:00 (土・日・祝日は除く)
- ・インターネットホームページ <http://www.schroders.co.jp/>

Schroders

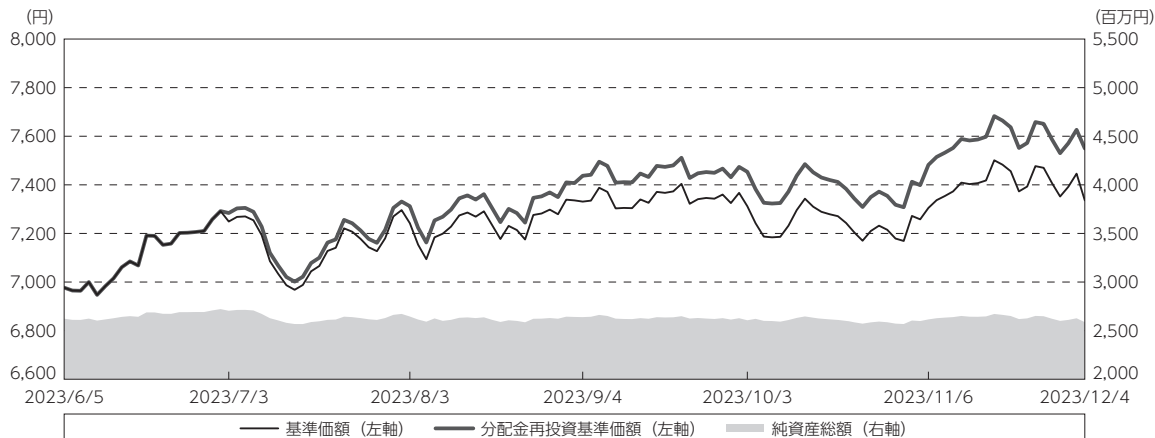
シュローダー・インベストメント・マネジメント

[Aコース（為替ヘッジなし）]

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2023年6月6日～2023年12月4日）



第121期首：6,977円

第126期末：7,336円（既払分配金（税込み）：210円）

騰落率：8.2%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2023年6月5日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

○基準価額の変動要因

当作成期首6,977円でスタートした基準価額は、7,336円（分配後）で当作成期末を迎え、当作成期首比8.2%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

当作成期、マザーファンドの主要投資対象ファンド（米ドルベース）はプラスのリターンとなりました。2023年11月以降、欧米における利上げ局面終了の見通しが広がったことが支援材料となり、株式は上昇したことから、高配当株式の組入れはプラスに寄与しました。債券資産については、2023年11月以降、投資家心理が上向き、クレジット資産は大きく上昇したことから、債券資産は全般的にプラスに寄与しました。特にハイイールド債券によるプラス寄与が大きくなりました。

なお、当作成期、為替ヘッジを行わない当ファンドの基準価額（分配金再投資ベース）は上昇しました。円安が大幅に進んだことも支援材料となりました。

1万口当たりの費用明細

（2023年6月6日～2023年12月4日）

項目	第121期～第126期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	52 (20) (30) (2)	0.711 (0.273) (0.410) (0.027)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用判断、受託会社への指図 ・基準価額の算出ならびに公表 ・運用報告書等法定書面の作成、および受益者への情報提供資料の作成等 ・運用報告書等各種書類の交付 ・口座内でのファンドの管理、および受益者への情報提供等 ・ファンドの財産保管・管理 ・委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷 費 用) (そ の 他)	4 (0) (1) (3) (0)	0.055 (0.000) (0.009) (0.046) (0.001)	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・印刷費用は、印刷会社等に支払う運用報告書作成等に係る費用 ・その他は、グローバルな取引主体識別子（LEI:Legal Entity Identifier）登録費用、金銭信託手数料等
合 計	56	0.766	
作成期間の平均基準価額は、7,282円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

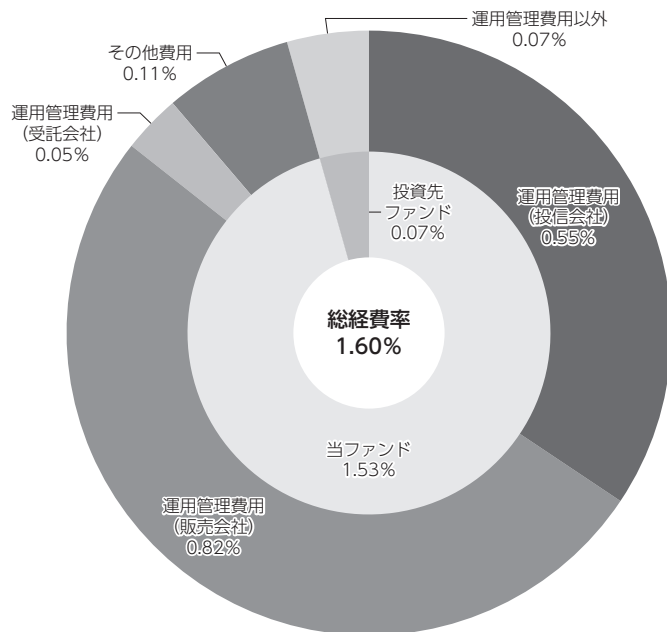
(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.60%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.60
①当ファンドの費用の比率	1.53
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	—
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドの費用については、投資先ファンドの管理会社が発行する年次報告書（アニュアル・レポート）の記載に基づきます。なお、投資先ファンドの運用管理費用（信託報酬）は当ファンドの運用管理費用（投信会社分）から支払われるため、別に収受していません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年12月3日～2023年12月4日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2018年12月3日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年12月3日 決算日	2019年12月3日 決算日	2020年12月3日 決算日	2021年12月3日 決算日	2022年12月5日 決算日	2023年12月4日 決算日
基準価額 (円)	7,105	6,906	6,334	6,717	6,764	7,336
期間分配金合計(税込み) (円)	—	420	420	420	420	420
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	3.3	△ 2.0	12.9	7.0	15.2
純資産総額 (百万円)	8,806	6,889	4,514	3,250	2,719	2,587

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

投資環境

（2023年6月6日～2023年12月4日）

当作成期、2023年8月から10月末にかけて世界株式は下落しましたが、11月以降、欧米における利上げ局面終了の見通しが広がったことが支援材料となり上昇に転じたことから、先進国株式を中心に世界株式は上昇しました。クレジット資産についても、2023年11月以降上昇基調に転じ、上昇して終えました。

当作成期初から2023年7月末にかけては、景気後退の後ずれ観測やインフレの鈍化が支援材料となり、株式は上昇基調となりました。8月から10月末にかけては、中国経済の先行き懸念や金利上昇、中東情勢の緊迫化を受けた地政学リスクの高まりを背景に、株式は下落基調を辿りました。11月以降、米国のソフトランディングや欧米の利下げへの期待が高まり、世界株式は上昇基調に転じ、上昇して終えました。債券については、国債利回りは2023年10月末頃まで、より長期にわたり高金利が維持されるとの見通しから、主要国の国債利回りは上昇（価格は下落）基調を辿りましたが、11月以降、インフレ圧力の緩和や、欧米での利上げ局面終了の可能性を背景に主要国の金利は低下（価格は上昇）基調に転じました。クレジット資産については、2023年10月末頃までは、金利上昇を受け下落基調を辿りましたが、11月以降は、投資家心理が上向き、リスク資産は上昇したことから、大きく上昇して終えました。投資適格債券、ハイイールド債券ともに上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2023年6月6日～2023年12月4日）

シュロージャー・インカムアセット・アロケーション・マザーファンドにおいて、投資比率が高位であるシュロージャー・インターナショナル・セレクトション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム クラスJの運用について

当作成期、株式については、米国経済指標は底堅く推移し、短期的には景気後退の兆候が見られなかったことから、株式が堅調に推移した当作成期初に株式組入比率を引き上げました。2023年11月、米国でのソフトランディングの可能性が高まったことから、さらに株式組入比率を引き上げました。

債券については、2023年6月、景気後退が後ずれしており、短期的なリスクが後退したと判断したことからハイイールド債券の組入比率を引き上げ、当作成期末まで相対的に高位での組入れを維持しました。現地通貨建て新興国債券については、エマージング諸国のインフレ動向は支援材料ですが、米ドル高がもたらし得る影響を考慮して、利益確定で一部売却しました。また、短期的には経済見通しがよりポジティブであることから、ポートフォリオのデュレーション（金利感応度）を引き下げました。

その他インカムアセットは、引き続き、流動性が高い上場銘柄を中心に組入れを維持しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2023年6月6日～2023年12月4日）

当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

分配金

（2023年6月6日～2023年12月4日）

収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向、信託財産の規模等を考慮し、第121期から第126期は、1万口当たり課税前で35円とさせていただきます。なお、留保益については、特に制限を設けず、当社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第121期	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期
	2023年6月6日～ 2023年7月3日	2023年7月4日～ 2023年8月3日	2023年8月4日～ 2023年9月4日	2023年9月5日～ 2023年10月3日	2023年10月4日～ 2023年11月6日	2023年11月7日～ 2023年12月4日
当期分配金 (対基準価額比率)	35 0.481%	35 0.481%	35 0.475%	35 0.476%	35 0.477%	35 0.475%
当期の収益	35	28	35	24	23	35
当期の収益以外	—	6	—	10	11	—
翌期繰越分配対象額	721	715	804	794	783	810

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

米国のインフレ率は低下基調が継続しており、米金利はピークに達したと考えられるほか、労働参加率の上昇により労働市場の圧力が緩和しています。これらを背景に、ソフトランディングを我々のベースシナリオとしていますが、市場でもソフトランディングが織り込まれていることには留意する必要があります。

ポートフォリオでは、ハイイールド債券について高位での組入れを維持しているほか、株式についてはポジティブな見通しとしており、日本株式への選好を維持しています。

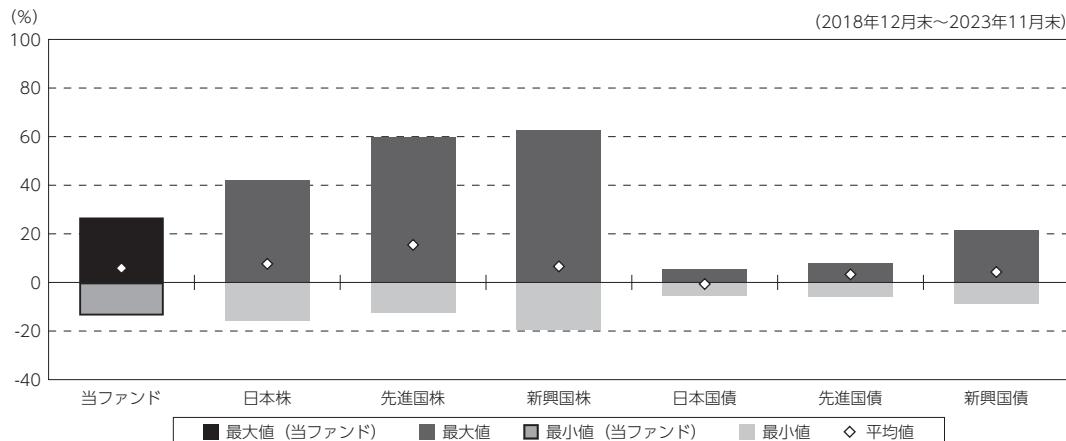
金利は安定化が進み、経済成長は今後数ヶ月で減速することが見込まれます。ただし、インフレ率は低下ペースが鈍化する可能性があるほか、中期的には利回りが構造的に高くなる可能性には注意する必要があります。これらを背景に、コモディティ関連の銘柄を選好しているほか、分散投資先の資産としての米ドルへの選好を維持しています。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2013年6月4日から2033年6月3日まで	
運用方針	<p>安定した収益の確保と信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、複数のインカムアセット（世界の高配当株式、債券等）に投資し、市場環境に合わせて機動的に資産配分の調整を行う投資信託証券や海外の債券等に投資する投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）への投資を行います。 ・実質外貨建資産については、為替ヘッジを行いません。 ・資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。 	
主要投資対象	当ファンド	シュローダー・インカムアセット・アロケーション・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム クラス」投資証券 ・ルクセンブルグ籍ユーロ建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・リクイディティ クラス」投資証券 ・ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人 「シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド ドル・リクイディティ クラス」投資証券 上記の指定投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンドへの投資を通じて、主として、市場環境に合わせて機動的に資産配分の調整を行う外国籍投資信託へ投資し、実質的に、複数のインカムアセット（世界の高配当株式、債券等）に投資します。実質外貨建資産については、為替ヘッジを行いません。	
分配方針	毎決算時（毎月3日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日）に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売却益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準、市況動向等を勘案しながら決定します。なお、分配を行わない場合があります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	26.7	42.1	59.8	62.7	5.4	8.0	21.5
最小値	△ 13.6	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	5.9	7.6	15.4	6.6	△ 0.6	3.3	4.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2023年12月4日現在）

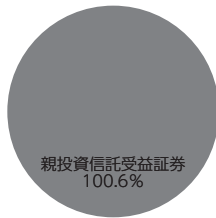
○組入上位ファンド

銘柄名	第126期末
シュロージャー・インカムアセット・アロケーション・マザーファンド	100.6%
組入銘柄数	1銘柄

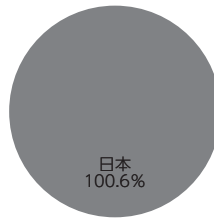
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

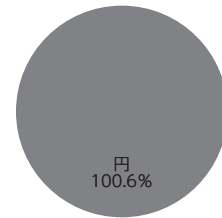
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

純資産等

項 目	第121期末	第122期末	第123期末	第124期末	第125期末	第126期末
	2023年7月3日	2023年8月3日	2023年9月4日	2023年10月3日	2023年11月6日	2023年12月4日
純 資 産 総 額	2,704,541,201円	2,645,217,006円	2,639,082,527円	2,606,610,819円	2,615,581,542円	2,587,281,362円
受 益 権 総 口 数	3,731,139,787口	3,652,719,841口	3,600,028,925口	3,564,915,831口	3,580,445,611口	3,526,761,396口
1万口当たり基準価額	7,249円	7,242円	7,331円	7,312円	7,305円	7,336円

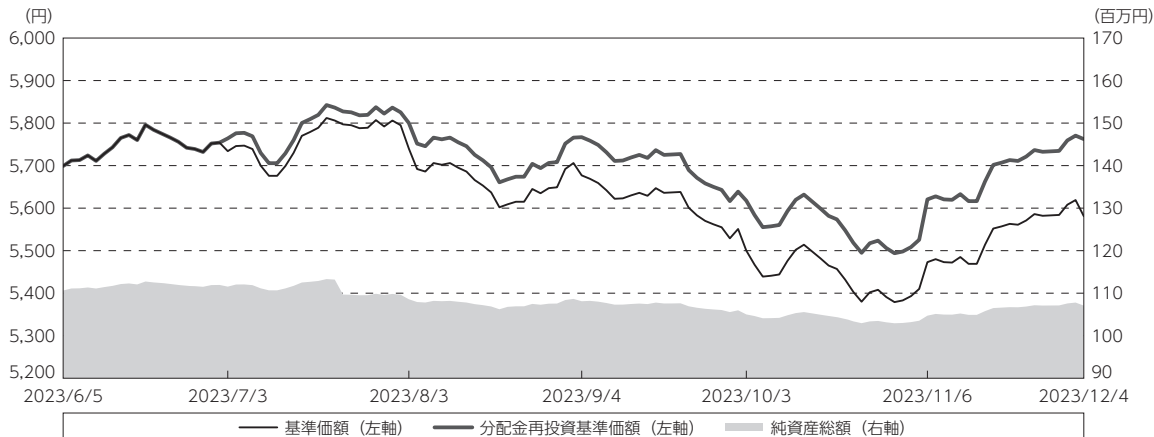
* 当作成期間（第121期～第126期）中における追加設定元本額は127,876,844円、同解約元本額は359,825,240円です。

[Bコース（為替ヘッジあり）]

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2023年6月6日～2023年12月4日）



第121期首：5,699円

第126期末：5,581円（既払分配金（税込み）：180円）

騰落率：1.1%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2023年6月5日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

○基準価額の変動要因

当作成期首5,699円でスタートした基準価額は、5,581円（分配後）で当作成期末を迎え、当作成期首比1.1%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

当作成期、マザーファンドの主要投資対象ファンド（米ドルベース）はプラスのリターンとなりました。

2023年11月以降、欧米における利上げ局面終了の見通しが広がったことが支援材料となり、株式は上昇したことから、高配当株式の組入れはプラスに寄与しました。債券資産については、2023年11月以降、投資家心理が上向き、クレジット資産は大きく上昇したことから、債券資産は全般的にプラスに寄与しました。特にハイイールド債券によるプラス寄与が大きくなりました。

1万口当たりの費用明細

（2023年6月6日～2023年12月4日）

項目	第121期～第126期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	40	0.711	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(15)	(0.274)	・ファンドの運用判断、受託会社への指図 ・基準価額の算出ならびに公表 ・運用報告書等法定書面の作成、および受益者への情報提供資料の作成等
（販売会社）	(23)	(0.410)	・運用報告書等各種書類の交付
（受託会社）	(2)	(0.027)	・口座内でのファンドの管理、および受益者への情報提供等 ・ファンドの財産保管・管理 ・委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	3	0.061	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.000)	・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.012)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	(2)	(0.042)	・印刷費用は、印刷会社等に支払う運用報告書作成等に係る費用
（その他）	(0)	(0.007)	・その他は、グローバルな取引主体識別子（LEI:Legal Entity Identifier）登録費用、金銭信託手数料等
合計	43	0.772	
作成期間の平均基準価額は、5,626円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

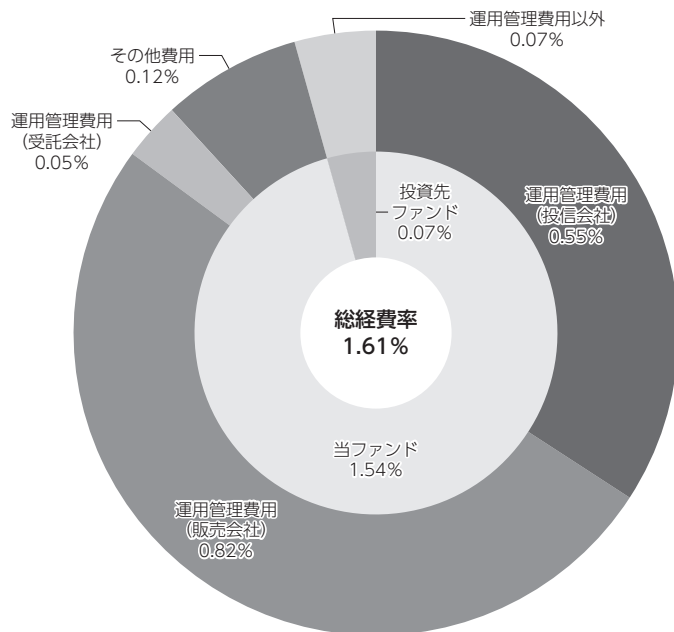
(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.61%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.61
①当ファンドの費用の比率	1.54
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	—
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドの費用については、投資先ファンドの管理会社が発行する年次報告書（アニュアル・レポート）の記載に基づきます。なお、投資先ファンドの運用管理費用（信託報酬）は当ファンドの運用管理費用（投信会社分）から支払われるため、別に収受していません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年12月3日～2023年12月4日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2018年12月3日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年12月3日 決算日	2019年12月3日 決算日	2020年12月3日 決算日	2021年12月3日 決算日	2022年12月5日 決算日	2023年12月4日 決算日
基準価額 (円)	7,467	7,417	7,118	7,039	5,892	5,581
期間分配金合計(税込み) (円)	—	360	360	360	360	360
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	4.3	1.1	3.9	△ 11.3	0.9
純資産総額 (百万円)	410	528	400	244	118	107

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

投資環境

（2023年6月6日～2023年12月4日）

当作成期、2023年8月から10月末にかけて世界株式は下落しましたが、11月以降、欧米における利上げ局面終了の見通しが広がったことが支援材料となり上昇に転じたことから、先進国株式を中心に世界株式は上昇しました。クレジット資産についても、2023年11月以降上昇基調に転じ、上昇して終えました。

当作成期初から2023年7月末にかけては、景気後退の後ずれ観測やインフレの鈍化が支援材料となり、株式は上昇基調となりました。8月から10月末にかけては、中国経済の先行き懸念や金利上昇、中東情勢の緊迫化を受けた地政学リスクの高まりを背景に、株式は下落基調を辿りました。11月以降、米国のソフトランディングや欧米の利下げへの期待が高まり、世界株式は上昇基調に転じ、上昇して終えました。債券については、国債利回りは2023年10月末頃まで、より長期にわたり高金利が維持されるとの見通しから、主要国の国債利回りは上昇（価格は下落）基調を辿りましたが、11月以降、インフレ圧力の緩和や、欧米での利上げ局面終了の可能性を背景に主要国の金利は低下（価格は上昇）基調に転じました。クレジット資産については、2023年10月末頃までは、金利上昇を受け下落基調を辿りましたが、11月以降は、投資家心理が上向き、リスク資産は上昇したことから、大きく上昇して終えました。投資適格債券、ハイイールド債券ともに上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2023年6月6日～2023年12月4日）

シュロージャー・インカムアセット・アロケーション・マザーファンドにおいて、投資比率が高位であるシュロージャー・インターナショナル・セレクトション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム クラスJの運用について

当作成期、株式については、米国経済指標は底堅く推移し、短期的には景気後退の兆候が見られなかったことから、株式が堅調に推移した当作成期初に株式組入比率を引き上げました。2023年11月、米国でのソフトランディングの可能性が高まったことから、さらに株式組入比率を引き上げました。

債券については、2023年6月、景気後退が後ずれしており、短期的なリスクが後退したと判断したことからハイイールド債券の組入比率を引き上げ、当作成期末まで相対的に高位での組入れを維持しました。現地通貨建て新興国債券については、エマージング諸国のインフレ動向は支援材料ですが、米ドル高がもたらし得る影響を考慮して、利益確定で一部売却しました。また、短期的には経済見通しがよりポジティブであることから、ポートフォリオのデュレーション（金利感応度）を引き下げました。

その他インカムアセットは、引き続き、流動性が高い上場銘柄を中心に組入れを維持しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2023年6月6日～2023年12月4日）

当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

分配金

（2023年6月6日～2023年12月4日）

収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向、信託財産の規模等を考慮し、第121期から第126期は、1万口当たり課税前で30円とさせていただきます。なお、留保益については、特に制限を設けず、当社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第121期	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期
	2023年6月6日～ 2023年7月3日	2023年7月4日～ 2023年8月3日	2023年8月4日～ 2023年9月4日	2023年9月5日～ 2023年10月3日	2023年10月4日～ 2023年11月6日	2023年11月7日～ 2023年12月4日
当期分配金 (対基準価額比率)	30 0.520%	30 0.520%	30 0.526%	30 0.542%	30 0.545%	30 0.535%
当期の収益	22	19	19	18	16	23
当期の収益以外	7	10	10	11	13	6
翌期繰越分配対象額	991	980	970	959	945	939

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

米国のインフレ率は低下基調が継続しており、米金利はピークに達したと考えられるほか、労働参加率の上昇により労働市場の圧力が緩和しています。これらを背景に、ソフトランディングを我々のベースシナリオとしていますが、市場でもソフトランディングが織り込まれていることには留意する必要があります。

ポートフォリオでは、ハイイールド債券について高位での組入れを維持しているほか、株式についてはポジティブな見通しとしており、日本株式への選好を維持しています。

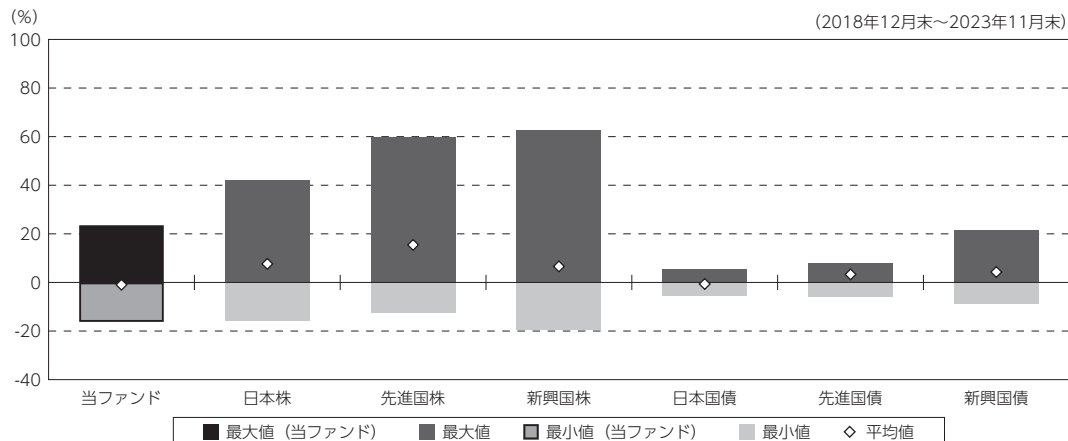
金利は安定化が進み、経済成長は今後数ヶ月で減速することが見込まれます。ただし、インフレ率は低下ペースが鈍化する可能性があるほか、中期的には利回りが構造的に高くなる可能性には注意する必要があります。これらを背景に、コモディティ関連の銘柄を選好しているほか、分散投資先の資産としての米ドルへの選好を維持しています。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2013年6月4日から2033年6月3日まで	
運用方針	<p>安定した収益の確保と信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、複数のインカムアセット（世界の高配当株式、債券等）に投資し、市場環境に合わせて機動的に資産配分の調整を行う投資信託証券や海外の債券等に投資する投資信託証券（以下「指定投資信託証券」といいます。）への投資を行います。 ・実質外貨建資産については、原則として、為替ヘッジにより米ドルと円との間の為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。 ・資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。 	
主要投資対象	当ファンド	シュロージャー・インカムアセット・アロケーション・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人 「シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム クラス」投資証券 ・ルクセンブルグ籍ユーロ建て外国投資法人 「シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド ユーロ・リクイディティ クラス」投資証券 ・ルクセンブルグ籍米ドル建て外国投資法人 「シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド ドル・リクイディティ クラス」投資証券 <p>上記の指定投資信託証券を主要投資対象とします。</p>
運用方法	マザーファンドへの投資を通じて、主として、市場環境に合わせて機動的に資産配分の調整を行う外国籍投資信託へ投資し、実質的に、複数のインカムアセット（世界の高配当株式、債券等）に投資します。実質外貨建資産については、原則として、為替ヘッジにより米ドルと円との間の為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎月3日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日）に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準、市況動向等を勘案しながら決定します。なお、分配を行わない場合があります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	23.5	42.1	59.8	62.7	5.4	8.0	21.5
最小値	△ 16.2	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	△ 1.0	7.6	15.4	6.6	△ 0.6	3.3	4.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2023年12月4日現在）

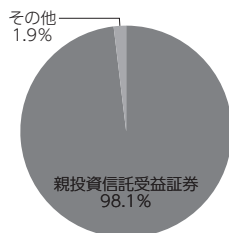
○組入上位ファンド

銘柄名	第126期末
シュロージャー・インカムアセット・アロケーション・マザーファンド	98.1%
組入銘柄数	1銘柄

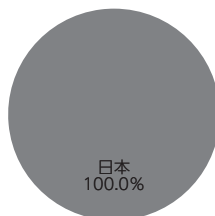
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

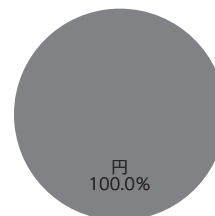
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

純資産等

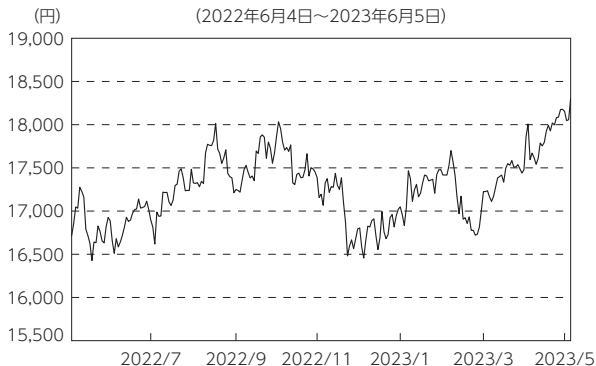
項 目	第121期末	第122期末	第123期末	第124期末	第125期末	第126期末
	2023年7月3日	2023年8月3日	2023年9月4日	2023年10月3日	2023年11月6日	2023年12月4日
純 資 産 総 額	111,542,217円	108,573,301円	108,106,792円	105,007,436円	104,715,892円	107,073,645円
受 益 権 総 口 数	194,543,030口	189,168,500口	190,419,212口	190,934,206口	191,348,918口	191,842,797口
1万円当たり基準価額	5,734円	5,740円	5,677円	5,500円	5,473円	5,581円

* 当作成期間（第121期～第126期）中における追加設定元本額は3,739,107円、同解約元本額は6,003,855円です。

組入上位ファンドの概要

シュロージャー・インカムアセット・アロケーション・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年6月4日～2023年6月5日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0 (0)	0.001 (0.001)
合計	0	0.001

期中の平均基準価額は、17,297円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(投資証券等を含む)が支払った費用を含みません。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位ファンド】

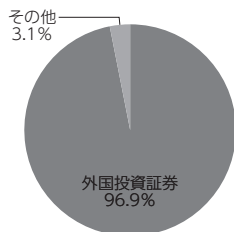
(2023年6月5日現在)

銘柄名	第10期末
シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム クラスJ	96.9 %
シュロージャー・インターナショナル・セレクション・ファンド ドル・リクイディティ クラスI	0.0
組入銘柄数	2銘柄

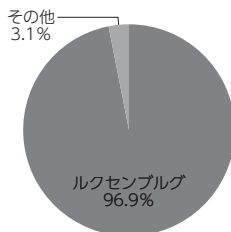
(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

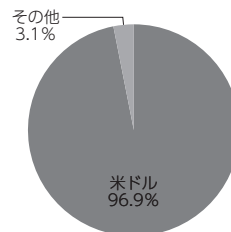
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

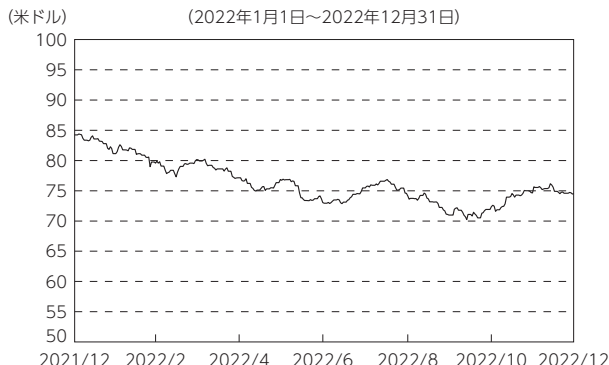
(注) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<ご参考>

シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム クラスJ投資証券

【配当込価格の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月1日～2022年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については、開示されていないため、掲載しておりません。

【上位10銘柄】*

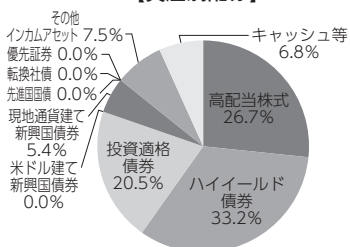
(2022年12月31日現在)

順位	銘柄名	通貨	種別	業種	比率
1	Schroder ISF Multi-Asset Growth and Income - Class I USD Distribution	米ドル	外国投資証券	投資ファンド	3.80
2	Schroder ISF Emerging Markets Multi Asset - Class I USD Distribution	米ドル	外国投資証券	投資ファンド	3.67
3	US Treasury 2.75% 31/07/2023	米ドル	外国債券	国債	3.11
4	Microsoft Corp.	米ドル	外国株式	情報技術	1.42
5	Apple, Inc.	米ドル	外国株式	情報技術	0.84
6	UnitedHealth Group, Inc.	米ドル	外国株式	ヘルスケア	0.78
7	Alphabet, Inc. 'A'	米ドル	外国株式	通信サービス	0.58
8	Texas Instruments, Inc.	米ドル	外国株式	情報技術	0.54
9	JPMorgan Chase & Co. 2.58% 22/04/2032	米ドル	外国債券	金融	0.50
10	Mastercard, Inc. 'A'	米ドル	外国株式	情報技術	0.48
銘柄数		1,020銘柄			

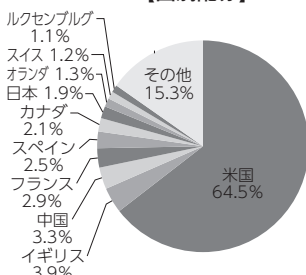
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、表紙記載の委託会社のホームページ、「投資信託一覧」から当ファンドを選択することにより、「投資対象外国籍投信の組入明細等」を閲覧およびダウンロードすることができます。

(注) 上位10銘柄については、投資先ファンドの管理会社が発行する年次報告書 (アナニュアル・レポート) の分類に基づき、投資先ファンドの純資産総額 (先物取引や先渡取引等を除く資産の評価額の合計) に対する比率を記載しております。

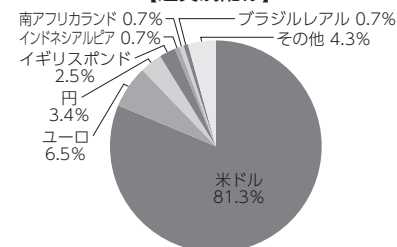
【資産別配分】*



【国別配分】*



【通貨別配分】*



*シュローダー・インターナショナル・セレクション・ファンド グローバル・マルチ・アセット・インカム クラスJ投資証券のマスターファンドの実績です。

(注) 国別配分につきましては発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

〈代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について〉

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

MSCIは、本資料に含まれるいかなるMSCIのデータについても、明示的・黙示的に保証せず、またいかなる責任も負いません。MSCIのデータを、他の指数やいかなる有価証券、金融商品の根拠として使用する、あるいは再配布することは禁じられています。本資料はMSCIにより作成、審査、承認されたものではありません。いかなるMSCIのデータも、投資助言や投資に関する意思決定を行うこと（又は行わないこと）の推奨の根拠として提供されるものではなく、また、そのようなものとして依拠されるべきものでもありません。